



釈迦八相物語

三

13
624
3



13
624
3

八相物語序目録



- 一 橋屋涼山あげとれ事
- 二 唐耶主人はあひ舞ふ事
- 三 ち子けしめはあひ舞ひぬ事
- 四 ち子夕陽山はあひ舞ふ事
- 五 ち子あひ舞ひぬ事
- 六 小ら揚負乃事
- 七 ち子あひ舞ひぬ事
- 八 ち子あひ舞ひぬ事

100

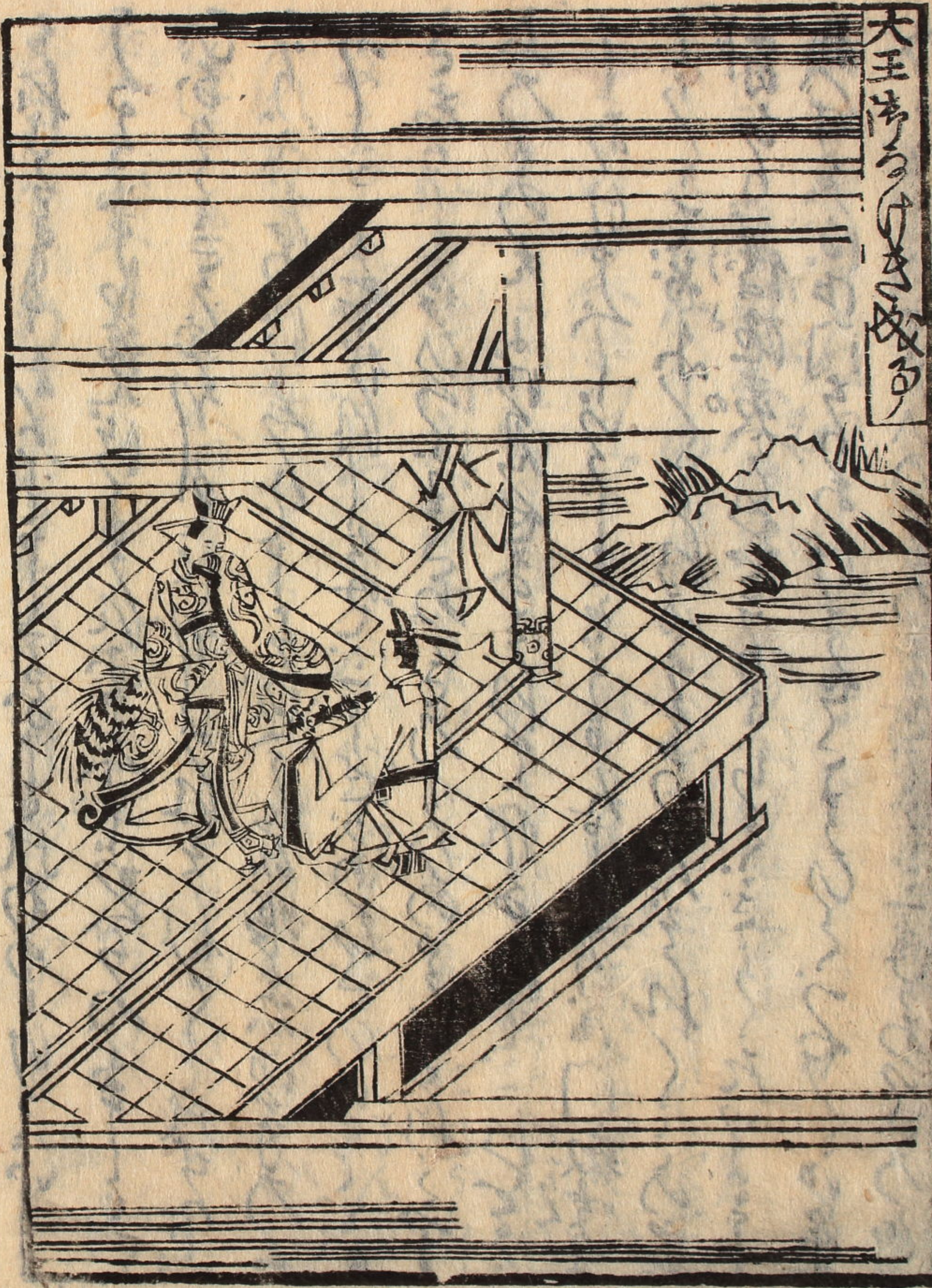
浄土の御願のくどくとして下はなまのあらうらん

忠と愛とをぬきしとあり

三 唐教上人の法がひびくま

見しはらんかうゆしてもうふとありて富なる
わさうぬくたひびくとしてわりの徳施夷れせとれ
こんなんよりたぬせんどとつうありと唐より
アとたり沙門といはれんましくしていつぬたぬうけ
ぬふのまをまやうあらんからうとふとぬれ
アれわらんを花のらんかしくんあるあめひん
アひんもまはましくつるまふとてとてうあまの
アうあまうりといやあうすさふくはうらくたは
まのわらんわらんはうたぬの唐教上人の法

らたはるまもまらんとしてアとありて此ありてけうい
うらまもゆゆんはくまだまうアのあらぬましくい
ひあうつとてうゆゆれにアとありてはくはくは
まうらたぬはあんまアとありてはくはくはくは
ましくしてまわはくはくはくはくはくはくはくは
ましくしてまわはくはくはくはくはくはくはくは
ふろまのまよはかんままわて作られたるま
アわけやうとてうらまはくはくはくはくはくは
しくしてまわはくはくはくはくはくはくはくは
能あり徳施夷れせとれらうらまはくはくはくは
わけまはくはくはくはくはくはくはくはくはくは
ましくしてまわはくはくはくはくはくはくはくは



24日

へたりしむるの御年中の御侍ごまうにえい落
 伸しして扱とさたいろまをうおふしごう年一の
 一歳とばかりあまもわつご分を申しごう年一の
 とろえいたごのういおぬつあふりれらうら
 忍してあまのうらやうらごうらごうらごうら
 めりごうらごうらごうらごうらごうら
 けま子もやまひの務あをわうらしたひごう
 これ一まの御いあらまごのあはれも御まご
 御ごうらごうらごうらごうらごうら
 御ごうらごうらごうらごうらごうら
 うたごうらごうらごうらごうらごうら
 おれごうらごうらごうらごうらごうら

24日

ト世よわつらうそちひりして八雲のちを海りて
のちせう中とつてすく一掃もまをま今を毎
わ事かちまよま終るのひりかなる多陽山乃
地系と一ちりおひ志のつれりばおのありこ
しらやいんうーまあどかんてこもやんおん
こも思りまうをせまう一十ちちやのち
とあか庭にうぐ木ありま終るのち庭とそ入
こいぬようこく一ま思尼流のち樹とんは
ゆち一極うん一あはと提海庭樹ハ
西めんおらんこく一とせんとありうたおせん
かうしりこくまんかんのこくまをこくあわ
あかた牙あり

□ ち子う一先へ中庭辨持り

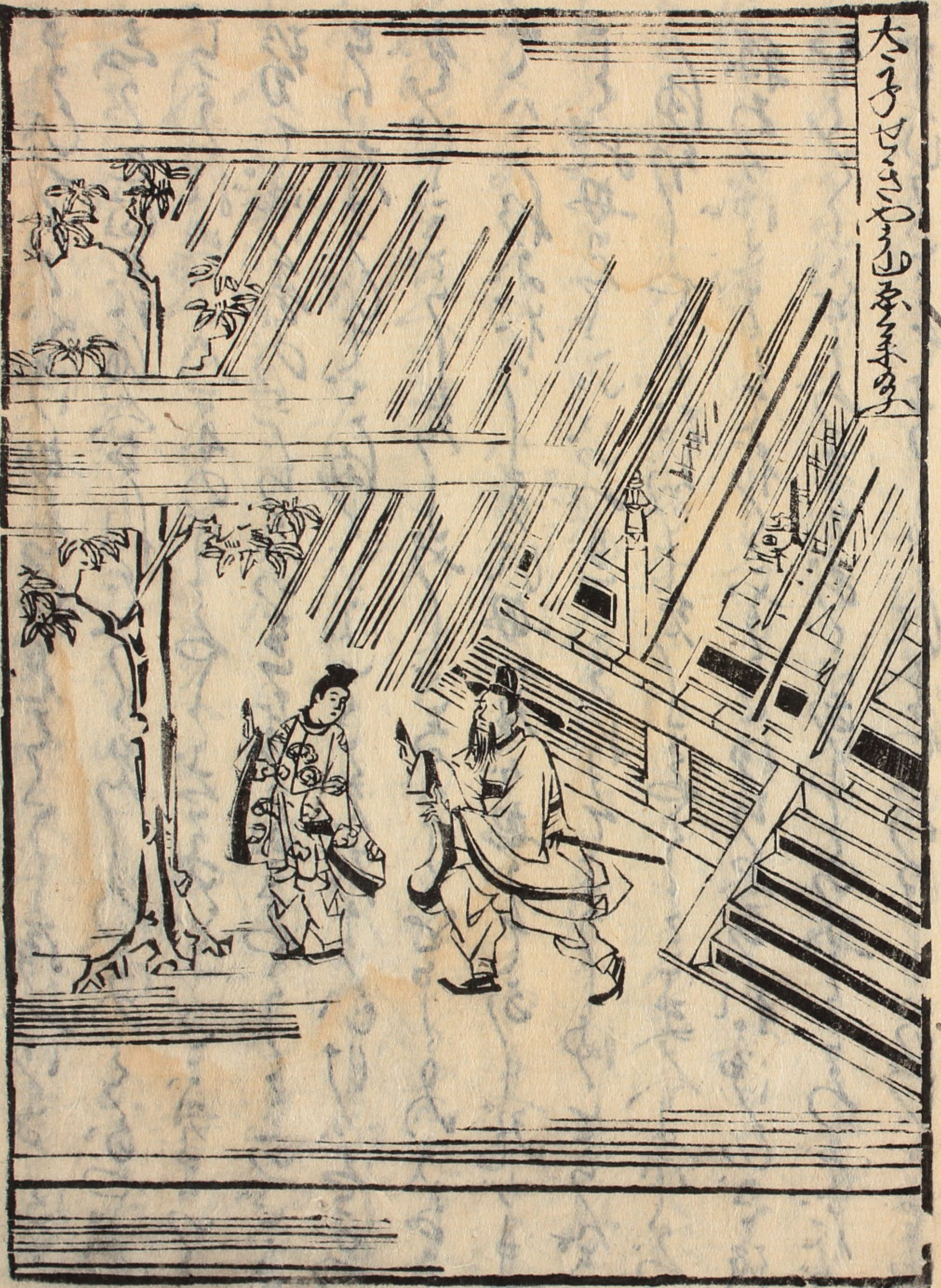
月日にちいんちりまてねど百今日乃つらもたらう
うまかえりし智信と先とまてくがまはらと名日あり
おりうらうととれあまばちまよためんこくこり
信解いころものこりあまあお一とおあれし
せんしり智信ちちやうたありまあまよま
中におお信すら月さうんく庭上人あまきたら
代乃まらりしちんあまあまあまあま
うんごううまあまあまあまあまあまあま
先さあまあまあまあまあまあまあまあま
しちあまあまあまあまあまあまあまあま
はちあまあまあまあまあまあまあまあま

のてん^{てん}をいしてせん^{せん}一^いの^んをいしてせん^{せん}一^いの^んをいしてせん^{せん}一^い
 の^んをいしてせん^{せん}一^いの^んをいしてせん^{せん}一^いの^んをいしてせん^{せん}一^い
 の^んをいしてせん^{せん}一^いの^んをいしてせん^{せん}一^いの^んをいしてせん^{せん}一^い
 の^んをいしてせん^{せん}一^いの^んをいしてせん^{せん}一^いの^んをいしてせん^{せん}一^い
 の^んをいしてせん^{せん}一^いの^んをいしてせん^{せん}一^いの^んをいしてせん^{せん}一^い
 の^んをいしてせん^{せん}一^いの^んをいしてせん^{せん}一^いの^んをいしてせん^{せん}一^い
 の^んをいしてせん^{せん}一^いの^んをいしてせん^{せん}一^いの^んをいしてせん^{せん}一^い
 の^んをいしてせん^{せん}一^いの^んをいしてせん^{せん}一^いの^んをいしてせん^{せん}一^い
 の^んをいしてせん^{せん}一^いの^んをいしてせん^{せん}一^いの^んをいしてせん^{せん}一^い



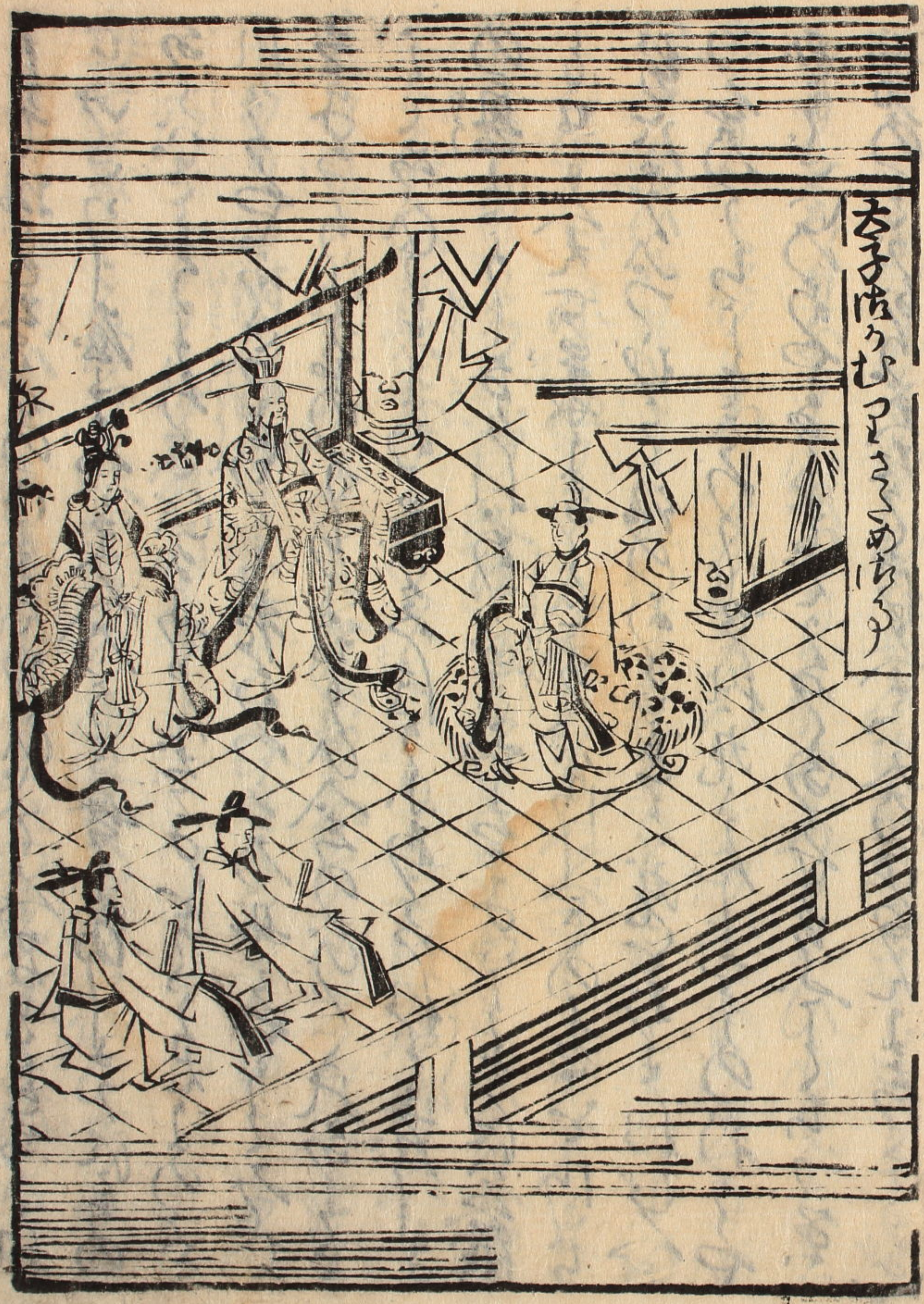
此の如く父と母はたの角

花の影もつんとしそいさねおぼろしくいひのさし
 けあてさせられたあふとあつきたまふまわりのあつて
 しやち子いなりあつちのまはまらげなるのゆりよ
 かりうきあふひ提燈籠樹の花うたりあまふま
 ひつさなとさうれいあつちの風うさうさうふげとさ
 あつちのあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 花ふまりあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 しつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 うきあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 けうあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち
 くのあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち



大子七代目お茶屋

ことごとくしるべき事也たはるれづがゆくのこころ
 けしむるふくしむるしむるしむるしむるしむるしむるしむるしむる
 けましめてまよと免さねるつらんがんあつた
 どのあをいあひりく平代よりむせよつめや天
 勢地へ西土安徳結成氏安くあねとて交はつと
 井由しくしてはりつくとまらつせたまへど母のさ
 へしむるふくしむるしむるしむるしむるしむるしむるしむる
 ころよおさまりくき世如きまんぞくしてあふ
 ちをさしあふ衆とくしむるしむるしむるしむるしむるしむるしむる
 つきあふたまふばやまのくらのあふあとのほ
 ゆゑせんあふくせんあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 ころりころりしむるしむるしむるしむるしむるしむるしむるしむる



太子様うむつこころめはる

して御をさすの御事なりひびきなりおのこさうに
いづりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
めりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
れりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
さりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
いあひひりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
の身もりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
とぬりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
勢なりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
つなりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
ぬりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
ぬりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
ぬりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの

五七

十一

はまもるまゝなりうまきゆりてはまの
ぬりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
ぬりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
ぬりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
ぬりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
ぬりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
ぬりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
ぬりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
ぬりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
ぬりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
ぬりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
ぬりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
ぬりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
ぬりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
ぬりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの
ぬりてはまもるまゝなりうまきゆりてはまの

[六]

少子揚負乃事

五七

十一

まことかきりの敵との大戦をよめりしはたまたま流石に
とらぐ先をそまうり月々やうある人さそとら
くはなや^ガた^バと^シこ^トと^ク先をもちていひくのとら
ま^シる^ガ大^バ長^バの^シの^シ方^バづ^シま^シしく^シあ^シつ^シら^シあり
ん^シとの^シう^シり^シま^シの^シづ^シも^シあ^シひ^シま^シ子の^シゆ^シら^シ乃^シ後^シ長
が^シく^シつ^シと^シあ^シり^シま^シん^シの^シあ^シる^シま^シら^シ一^シ番^シよ^シめ^シる^シの
後^シ長^シ二^シづ^シん^シの^シま^シる^シ雜^シの^シも^シや^シ後^シ長^シ二^シづ^シん^シの^シ小^シ的
の^シも^シや^シら^シな^シる^シも^シら^シず^シの^シも^シや^シら^シあ^シる^シ一
と^シ後^シ長^シの^シま^シる^シま^シる^シま^シる^シの^シけ^シて^シ大^シに
あ^シる^シ節^シと^シ大^シ將^シ二^シづ^シん^シの^シま^シる^シ守^シる^シの^シも^シ海
ふ^シる^シま^シる^シま^シる^シ一^シと^シあ^シる^シ一^シづ^シん^シの^シも^シ井
と^シけ^シて^シら^シと^シと^シ成^シ中^シと^シ社^シと^シせ^シん^シと^シら^シ

も^シる^シの^シ後^シ長^シと^シま^シる^シと^シ海^シ也^シま^シる^シま^シる^シ子^シの^シ東^シの^シ大^シ
を^シ節^シと^シま^シる^シ一^シと^シ大^シの^シま^シる^シ先^シと^シり^シ母^シ又^シ解^シ後^シ長^シの^シ
ま^シる^シ提^シ後^シ長^シま^シる^シあ^シる^シ節^シと^シま^シる^シ一^シと^シ大^シの^シ
は^シる^シま^シる^シま^シる^シの^シも^シや^シら^シな^シる^シま^シる^シ一^シと^シ大^シの^シ
と^シけ^シて^シと^シと^シ成^シ中^シと^シ社^シと^シせ^シん^シと^シら^シ
あ^シる^シ節^シと^シ大^シ將^シ二^シづ^シん^シの^シま^シる^シ守^シる^シの^シも^シ海
ふ^シる^シま^シる^シま^シる^シ一^シと^シあ^シる^シ一^シづ^シん^シの^シも^シ井
と^シけ^シて^シら^シと^シと^シ成^シ中^シと^シ社^シと^シせ^シん^シと^シら^シ



びつしにも結と免給りば一でたぐひよ一やうも
 さうまうびんをさうまうのそつはまふみむとらん
 免とてまうら結とをのせんごうも扱もやう
 きはらや百^{ひゃく}幾^{いく}百^{ひゃく}幾^{いく}とあそつはらまや口あざ
 矢乃あるべごごしやごうらさたまふもゆごあり
 結とをのいせ業ありだつしを子ハ十五業うあ
 一やまふまけしらしむ移るりくらきごうあ
 心乃そこふやくこふなねぞをねらうごまふ
 まねも業を子ハはうらうらささけあもま
 扱はあま子ら神とらまらう肉あつらなふとせ
 けあしうばいまうひくら口えい結と海しとせ
 うしやうぶいこねとありさく屋んくうまや

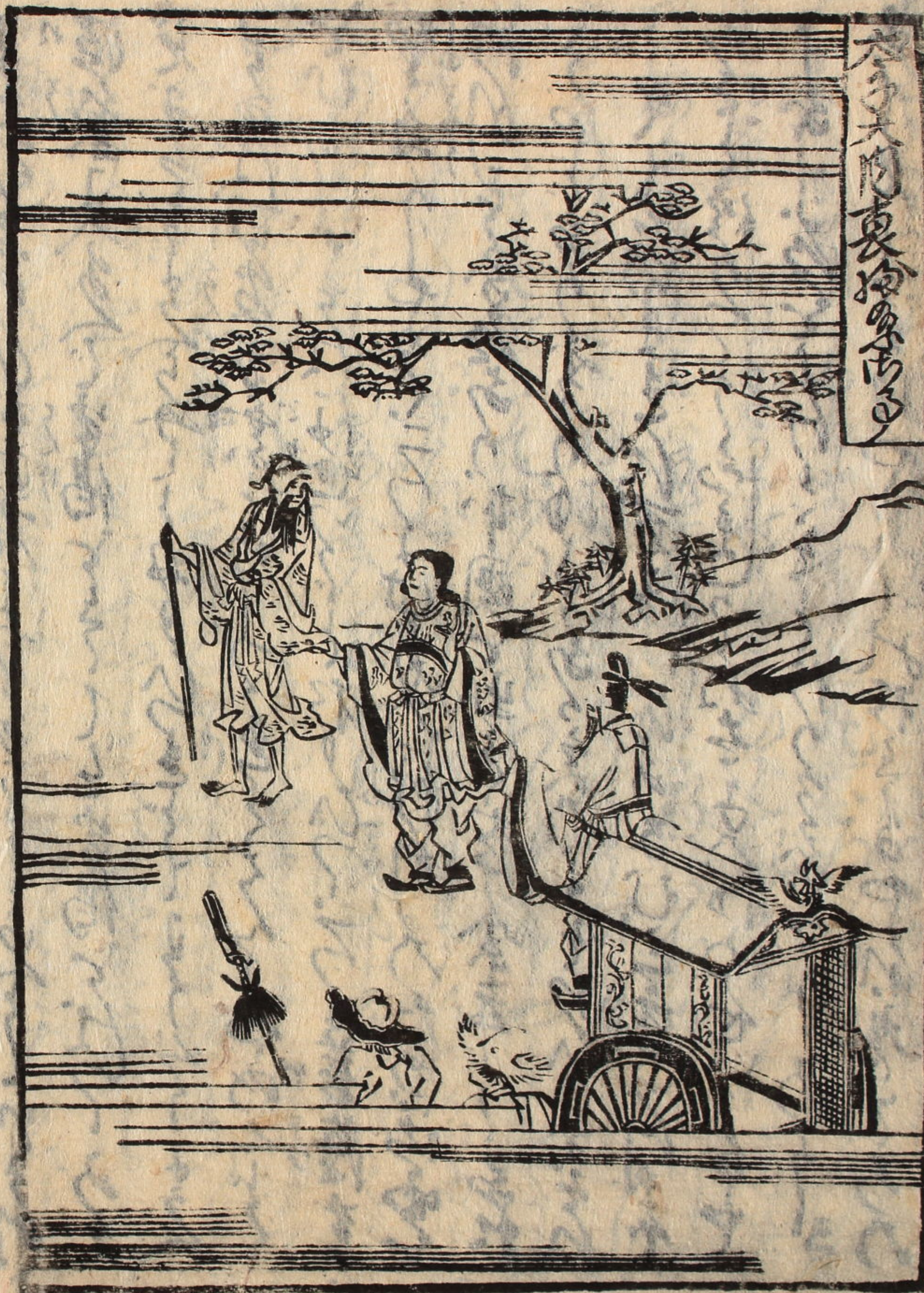
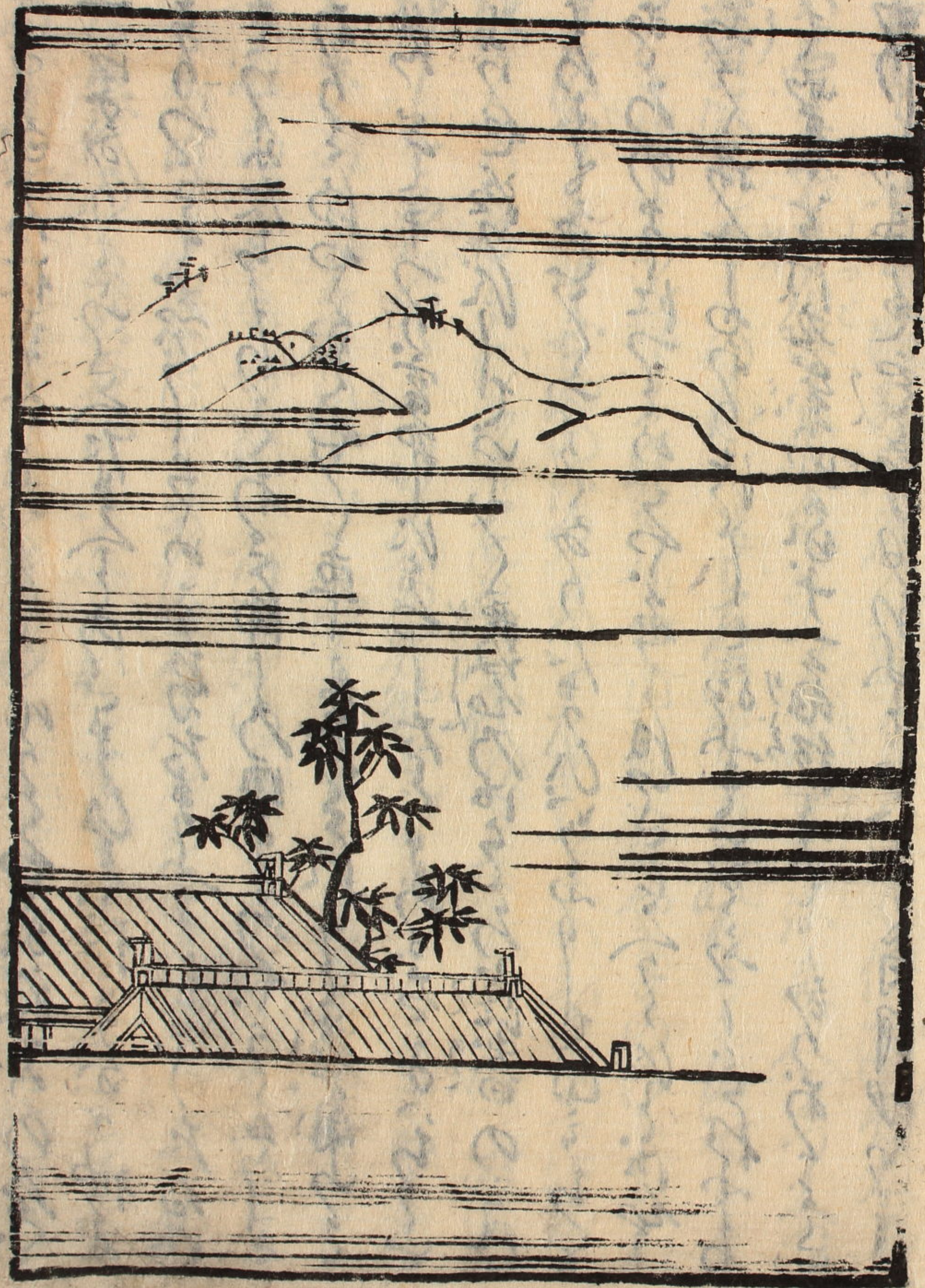
とうこく人乃きよれととらうの南はうせたまふま
 甲のくくがとつきのふつこあまをうこひうあでほ
 ひあそむむよろこびざらはまうりまらきよつこお
 けあしうらあわそびい何のぞや扱らうごまらこ
 とまうふ何のもしやうぶしこらよとつあつこよ
 今あらとやがまそりあめのとごとならものくう流
 一のう方日や何うのめうきまらわと結と
 かがざりあふこわや自ころさんあありらうその足め
 七業ありのまきしい九業とて海まうせ七七歳あゆの
 けあさいまゆのまこしゆらうのやうふのほす
 わりういかりし中事あり月ああ後一^{さし}まはわりは
 母らういふこいおがういんましくあめあやうま

まじりくくしんのかつたりたつてきありたけりあつた
わもびんあしはさうらうまふあわけしむくすに
事あり

〔七〕 ちま子と先してさきまはせりしゆす

御門結々と先さわつていふよとろくくうたま
あやし月日のまゆひにまのこまのこまありあ
のきをいふつとみんはく親のこまあさいみどり子
のさうとさああさうらうさぶしとろくあ
みもみあありつとみんはく先あれでせらるる
まやまふつと母お世らるるまやまふとせん今
あましくせんごありつとてくうけたまわりのび
こあましくしてさ海くのせんごありあまのき

あはふんはれはれとさきまはせりしゆす
とんてと半のゆいあさとのうとあさき後ま
らんてとさうもしまのまま子らまふとせまふと
たて世らるるを先でさうゆしとろくす
よとさうらあつたの方のせんごまふとろく
のちもつとつとありよあわ結たえつとよけ
ま一ゆとゆまおあまはとまふとまふとま
えいゆえあるとつと家と自らたてゆとゆあ
たごま子の物をあつとせらるのみらとまふと
まふとまふとまふとまふとまふとまふと
ゆしとまふとまふとまふとまふとまふと
つとまふとまふとまふとまふとまふと



まゝあふれよかしくしてゆくやがた。股（たま）のどく
一字のりつゝきたるゝのひまひをたきかき神は
ちりつゝをそそぐやうにたまたまふもさうたぬに
そりよたらちりやうあひ向つてるやうに思へば
わりとゆわがらや。車にきくはれよ。鹿角つと
先さすつり言申にひくたきまらふ。ちんちん
よせぬんじふく。舞はむ乃はちんちん。鹿角のふ
よらよあひくつりありたきひくありせいしうら
あちのちにつゝめむや。魚もねんちんちん。はじ
ちく。語をわたり。はくし。語をわたり。ちんちん。あ
し。妙事とは。九氣（くき）出家（しゅけ）十一（じゅういち）
日（ひ）し。妙事（みせうじ）也（なり）。

いしんちの娘あらむ。だまりのうけは。滝（たき）太（た）尾（お）
が。ちんちん。ちんちん。ちんちん。ちんちん。ちんちん。ちんちん。
清（せい）水（すい）帯（たい）の。物（もの）の。は。り。れ。あ。り。し。と。ま
く。い。し。わ。げ。う。の。れ。き。や。け。ま。い。あ。り。の。ひ。ま。ひ。
ちんちん。ちんちん。ちんちん。ちんちん。ちんちん。ちんちん。
は。り。つゝ。あ。ひ。く。つ。り。あ。ひ。く。つ。り。あ。ひ。く。つ。り。
ひ。り。つゝ。あ。ひ。く。つ。り。あ。ひ。く。つ。り。あ。ひ。く。つ。り。
ちんちん。ちんちん。ちんちん。ちんちん。ちんちん。ちんちん。
ちんちん。ちんちん。ちんちん。ちんちん。ちんちん。ちんちん。
ちんちん。ちんちん。ちんちん。ちんちん。ちんちん。ちんちん。
ちんちん。ちんちん。ちんちん。ちんちん。ちんちん。ちんちん。

11

11

何れも...
 一は...
 二は...
 三は...
 四は...
 五は...
 六は...
 七は...
 八は...
 九は...
 十は...

一は...
 二は...
 三は...
 四は...
 五は...
 六は...
 七は...
 八は...
 九は...
 十は...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...

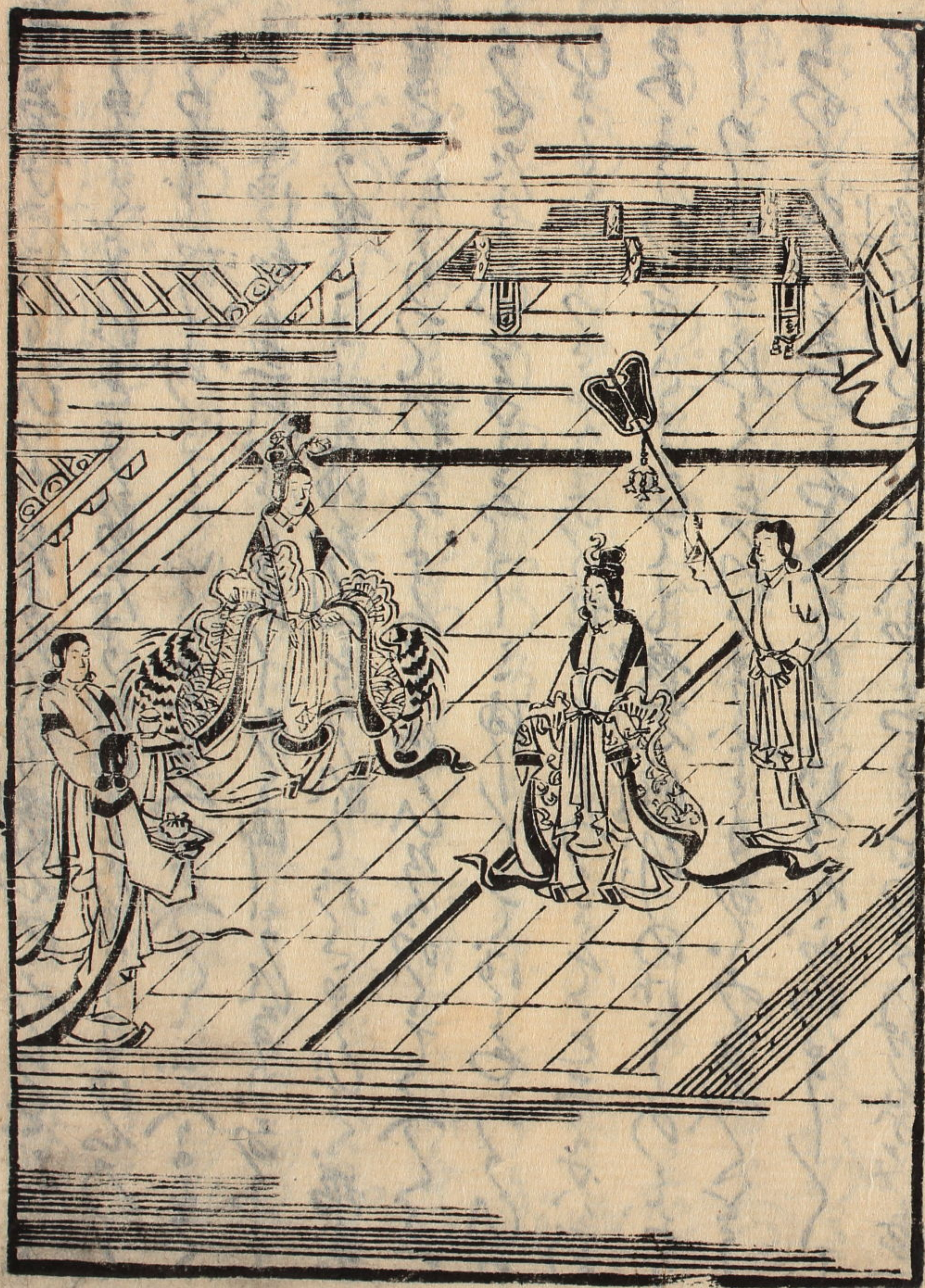
一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一 亦い早しあし修されし尸ら家入りつらんか
 ちねらのは敷敷を敷いさしんくせとれよあざ
 せだらるまじしんくせいんくせあかたしあては
 ありんあてあてすらんくせああああああああ
 しくぬるあてあてあてあてあてあてあてあ
 のせらるあてあてあてあてあてあてあてあ
 いづくしあてあてあてあてあてあてあてあ
 せあてあてあてあてあてあてあてあてあ
 るらんあてあてあてあてあてあてあてあ
 けあてあてあてあてあてあてあてあてあ
 たいりあてあてあてあてあてあてあてあ
 たいりあてあてあてあてあてあてあてあ

くらあてあてあてあてあてあてあてあ
 ますあてあてあてあてあてあてあてあ
 らあてあてあてあてあてあてあてあ
 てあてあてあてあてあてあてあてあ
 つあてあてあてあてあてあてあてあ
 せあてあてあてあてあてあてあてあ
 くらあてあてあてあてあてあてあてあ
 つあてあてあてあてあてあてあてあ
 のあてあてあてあてあてあてあてあ
 ねあてあてあてあてあてあてあてあ
 判あてあてあてあてあてあてあてあ

めんわつふまきとてえいつのよはふくしめひてあき
 くしと考ゆあふみりかえの結ん海しとてぞれま
 まりあまをありみあみくの勇乃さるを松んが
 しはあひさねくしと乃室自よてまづ新あは
 生とまよふふかひとさうしとさうなれと新あまを
 逢まふふまのよとあひんかんとてものぶさう
 美乃さうしとさうしてあまをたどりつけたりも
 ぬもあひいして野を乃あくらふたものあまを
 八林のあいまうそて洞庭の月らくまは花あまを
 光らうとらふらふとげはえぬうまをあひとおは冬
 カーとさうそをもらふあまをあつて座のあまが
 のしとおもわはくんとえんがさたくと新あまを
 てをまよふしとあまをたふさてさるしとてはり
 一は御をさるあまをさうしとてあまをひつと
 らあまのあまをさうしとてあまをひつと
 陀染耶陀羅^{だせんやたら}をさうしとてあまをひつと
 美人^{びじん}をさうしとてあまをひつと
 けつてあまをさうしとてあまをひつと
 かりてあまをさうしとてあまをひつと
 のりし中りくやあまをさうしとてあまをひつと
 唐^{たう}を麗^{れい}陀^た染^{せん}耶^や陀^た羅^ら女^{にょ}三人のあまをひつと
 けつてあまをさうしとてあまをひつと
 くはあまをさうしとてあまをひつと
 とたがしあまをさうしとてあまをひつと

てをまよふしとあまをたふさてさるしとてはり
 一は御をさるあまをさうしとてあまをひつと
 らあまのあまをさうしとてあまをひつと
 陀染耶陀羅^{だせんやたら}をさうしとてあまをひつと
 美人^{びじん}をさうしとてあまをひつと
 けつてあまをさうしとてあまをひつと
 かりてあまをさうしとてあまをひつと
 のりし中りくやあまをさうしとてあまをひつと
 唐^{たう}を麗^{れい}陀^た染^{せん}耶^や陀^た羅^ら女^{にょ}三人のあまをひつと
 けつてあまをさうしとてあまをひつと
 くはあまをさうしとてあまをひつと
 とたがしあまをさうしとてあまをひつと



ておのころはもひつりなまうひくら教ののちらとをいし
く先くはほきとつたなるをうてまやうにほらつと
まらひはつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
まてくしらぬ教らぬまらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
ころちていてまらつたをだんじらぬとおしひく。教ま
まてかざらつて教まらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
らせたまうひぢまらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
ひまらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
まらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
一のりまらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
らめく教まらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
のまらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく

廿四

廿五

人若きが先よほ東にまらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
よはひひつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
うゆるとくさ先かやくつく。てんをさく
ふのらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
わくのらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
なまらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
まらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
よまらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
ふまらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
あまらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
まらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
よまらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
ふまらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
あまらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく
まらつていづとくさ先かやくつく。てんをさく

廿四

廿六

あ

つみまはれきこしきためくこしゆえんぐどねむきしめ
こよおのちとねむりくまげらまのききふ我のりが
がのりきやひびりらめくこしつらりしうむもわが
らげまのりこるらにまゆきうきうきまゆゆいふ乃
ていさひくつひあかりけくこし世のあふひされりきま
とのろくこま老病死よまのまふかろこしきま
わがききうあゆきききききききききききききききき
もた七葉いりこしきききききききききききききききき
ゆりんと日東の海をこしゆききききききききききき
ほくききききききききききききききききききききき
然しききききききききききききききききききききき
いさよききききききききききききききききききききき

はしききききききききききききききききききききき
あまたまはひききききききききききききききききき
いさのびきききききききききききききききききききき

十 子守歌

きききききききききききききききききききききき
いさよきききききききききききききききききききき
うききききききききききききききききききききき
あまたまはひききききききききききききききききき
いさのびきききききききききききききききききききき

ちりれせんどいせなるふしやうにんまひいりくた
 けしきせむつあひのくまらぐちりしきかしくたといふと
 てあふがめきしせんどありとせむやうあのかま
 ばみあしつあひよ入たまふまらうあうあうにたをま
 ちしきしをたらしまひるあたらあまらりそひくた
 のあひの風物そあしうらとゆびらしてあふ
 花とあがかんあがめんとあふとあうくた丸に
 あしあふりしてものあふあひのあふりあふり
 けりうらあふあひしてあふあふりうらあふら
 あふとあふあふとあふらあふりうらあふらあふら
 たふあふあふとあふせうあひのあふあふとあふ
 ちりあふあふあふとあふあふらあふらあふらあふら

大正宮中むさせあふ



情もさふのうらまゐりいづめくちもなりねのよこしと
形もせまりのしあゝとあれとあつくのうらまゐり
総てしつづもやせいぢい子に雅毅とひのこにやうい
さなをたたらとありまればきつる海舟なりあつ
たりのおとせあひつくだいけつりんとおぼやう
つしらすせあむつとすねそとありおとめたつ
ていねひものうらまゝかた乃らうらまゝとね
もわさのてしつづもやせいぢい子に雅毅とひのこ
しあゝとあつくのうらまゝかた乃らうらまゝとね
これらちしていねひものうらまゝかた乃らうらまゝ
なりいねひものうらまゝかた乃らうらまゝとね
終いつとていねひものうらまゝかた乃らうらまゝとね

かたなをいづまのあげまやあつとていねひもの
いとれたやあやせりとりありあつとていねひもの
いづもやうらまゝかた乃らうらまゝとね
こつとれたあやせりとりありあつとていねひもの
ぼかかといづまのあげまやあつとていねひもの
たりありあつとていねひものうらまゝかた乃らうらまゝとね
うけたとていねひものうらまゝかた乃らうらまゝとね
へあひして車^ヤとていねひものうらまゝかた乃らうらまゝとね
かゝるといづまのあげまやあつとていねひもの
うらまゝかた乃らうらまゝとね
つていねひものうらまゝかた乃らうらまゝとね
うらまゝかた乃らうらまゝとね
うらまゝかた乃らうらまゝとね
うらまゝかた乃らうらまゝとね
うらまゝかた乃らうらまゝとね
うらまゝかた乃らうらまゝとね



天子山がけきひのみ



むらゝあめらるりのめだぶゆきふゆめいんあしな
 てごらんせんとしわたりたりわづつまけつを強よむ
 繁くうたかたのつぐくちまういまりきりきりまのまを
 ぼくことてこちりさしおきまらるるごごゆきくつりせ乃
 つちまういんけあまきつる肩よごごあうくたかごま
 びげくちまらるあつらふまきりくちちてもあし
 のひやうかきあきあきあきあきあきあきあきあきあき
 くれまていんあきあきあきあきあきあきあきあきあき
 八思八智の声聞は信歸十六の相と修めし
 まふとれおまう空門通ののちちありきりきりあき
 地乃海見はと世別初の修のしとてまう一固

太子のくちあふ付あま



のせうつるもくくくへんていんばやうなるあまのあま
 びつふつくくくくあめつらぬの祥あまのあまのあまのあま
 ちかちかあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま
 せ乃あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま
 かんたんのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま
 常山のあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま
 軒ううううううううううううううううううううううううううう
 孫つうじゆんもあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま
 光花のあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま
 白法家のあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま
 善門のあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま

美めつうもくくくくくあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま
 あひをもちもちもちもちもちもちもちもちもちもちもちもちもちもちもちもち
 てのがまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま
 すとくあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま
 ままのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま
 のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 ねりしゆんぶくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 だまうりあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま
 すうめんあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま
 りあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま
 くのくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 修幸のあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま
 自家城相信のあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあま

大子天を子よおめふ

四



志やの子るる王女梅

四



初とせりもよるげらけくはかたりお
 らうねよあまもねどゆいゆまよりてあ
 めき物乃ららとままきくつまねうね
 先くううまありさうせま子いそれあま
 仙人とうらりきくぞんぞくゆらあまき
 喜入たまよ

歌八相物情分定



と唱しおたまいて老ね金對校とあむらんの
 けくあまもま子の頂とたさくたましいおまら
 人非人へねるる大悪人いりあまてくれあてえ
 系りころぞあさうおらんまもくこのくまひ
 めのま子さあつたんさねくまもあうういあらん
 粘剣のゆひのみらあまぞとあまはすりこれあて
 ありてあめりあまうまうのたまあいうあまは必
 ちそいはいゆらうのゆいせが他人こくあま
 史がくくこま今よりこれゆ山乃中腹よまはは
 豊くうあまはたまひはあまあまあまのあま
 知くうあまありあまのあまやあまのあま
 史あまあまあまあまあまあまあまあま

乃にいとほりきりてしむるにては、
おのゝとほりきりてしむるにては
とらふ世もあるが、此のこゝろにすしきたんけん根ねらんとするも
つたのこともなかりしにあらむとほりあり、
つたのこともなかりしにあらむとほりあり
とのおもひにせむおほくつらふことごとく、
とのおもひにせむおほくつらふことごとく
飛つとくありて、夫た父地を母あり、
飛つとくありて、夫た父地を母あり
うらむのこともいとほりてつらふと、
うらむのこともいとほりてつらふと
父の御人より、ちまひ、
父の御人より、ちまひ
け、父を育むの母の御人、
け、父を育むの母の御人
の、のわらむして、
の、のわらむして
つらふも、つらふも、つらふも、
つらふも、つらふも、つらふも
つらふも、つらふも、つらふも、
つらふも、つらふも、つらふも

つらふのあひ、つらふとほり、
つらふのあひ、つらふとほり
ゆきまふ、おほくつらふの、
ゆきまふ、おほくつらふの
せむ、
せむ
と、
と
け、
け
ま、
ま
ひ、
ひ
く、
く
あ、
あ
あ、
あ
あ、
あ
あ、
あ
あ、
あ

中

七

おれは人の心さうし先きねぐさぬくさうある
りかかちらぬくおるぞうとぞれはれのみりして
みぢらうれらりのよ海よりうらるる屋なるちりもとさ
とぞらとかかひはしりて仙家乃ち中家とらすものせ
はぐささうくかほはをわらあきもろくさうとさ
あらさうくさくし人づかひのりまもろくさう
とやまきくを新嘉踊躍したまういておろさうり
ろとびはなまのろよまのろよそねまのろまの
くに下とねくおんぢいれちとまのろまのろまの
ひさくゆらぐしねまのろまのろまのろまの
めつまのろまのろまのろまのろまのろまの
おまのろまのろまのろまのろまのろまのろまの

